



日刊 二月七日
日刊 二月七日
日刊 二月七日

座講識常

チュートはテウトアと
も云ふ家庭教師のこと
だ、家庭の女教師をば
デトレスまたはデニ
トレスと云ふ、ウニ
トレス（給仕女、腰元
酌婦の類）と間違いた
つたら勿論失禮でせう

東京 間全線開通せず

水戸土浦間復舊に晝夜兼行
出水被害復舊に晝夜兼行で努めてゐる常磐線列
車は昨日午前十一時から上り方面は下孫まで
開通し上野駅から下りに於て土浦まで昨日
午後四時頃より開通したが此の間十五ヶ駅の中
下孫、大塚、石神、佐和、佐和、水戸、
石岡、高濱、神立、土浦間、
及び友部附近に被害を残してゐるので全線復舊
は明日にも覺束なしと見られてゐる。

波立附近が

また崩壊
上り列車立往生
平塚からの下り方面列車は互
理、岩沼間の阿武隈川鐵橋架
換工事地に於ける不通を開

平市の都市計画

道路網愈よ決定
来る四日の地方委員会で
平市都市計画の交通血管であ
る道路網は幹線（主要道路）を
幅員十五米、十一米、八米、
七米の四種に分ち同市を中心
として好間村の川中子、今新
田、下好間、愛谷及び内郷村
の御台境、御殿、小島並びに
飯野村の北白土、谷川瀬と神
谷村の鎌田、並に互るもので
あるが愈よ来る四日午後一時
から縣廳に開かれる地方委員
會へ青沼市長、伊藤助役（幹
事）野崎市會議長、蓮沼副
議長、松崎松治、萩原義雄兩
市議の四委員出席評議の結果
決定されることになつた

貯蓄報國

煙草小賣人の
三年間に一萬四千圓
水戸専賣局平煙草元賣所管
下小賣人組合では報國貯蓄に
關し共同貯蓄組合の創設を計
畫中であつたが設置に決して
小賣人七百五十名から集まる
三百五十圓を来る七日の支那
事變一週年記念日に第一回の
郵便貯金をなす筈だが向ふ三
ヶ月前毎月これを決定する同
組合は次回から一名五十圓以
上の申合せがあり一ヶ月前四
千五百圓づゝの貯蓄金は三年後

分會長會

明日藤田校にて
平市郷軍聯合分會では明日
午後一時から藤田女學校内に
に元金だけで約一萬四千圓に
達する譯である

常磐線の水害で

東京に鮮魚拂底
郡山經由の高運賃を客車便
石城各濱では鐵道の出水被害
を客車便で東北本線をとる郡
山經由輸送をなし昨日の如
きは京線の發送百五十個に達
したが東京まで一箱一圓五錢
を要する高運賃でも平常の鮮
魚車輸送より有利であるとの
ことである

昨日の俵米共取値

前回より稍安い
昨年より一俵で五十錢高
石城郡販賣昨日の俵米共取
は出廻り千七百八十五俵（内
大麥七俵）で二十餘名の競争
入札の結果は一般に買氣活潑
でなく前回は比して稍安の
記相場場の爲め不調となつた
の俵米八百八十一俵、大麥七
俵、取引された俵米は八百九
十七俵に過ぎなかつた當日の
最高は十二圓九十一錢最低十
二圓七十六錢で入札の中には
十二圓五十錢をさへ見る下押
である之れを前年當日の出荷
九九六俵最高十二圓卅五錢、

中支視察旅行記

（二） 駒木根忠三氏より

（十二圓七十八錢）勿來三一
九俵（十二圓七十六錢）神谷
三〇俵（不調）小川八五俵（
十二圓九十錢）同二號三〇
俵（不調）夏井三八俵、平八
號七俵（大麥）（各不調）第一
一俵（不調）飯野七〇俵（
十二圓八十一錢）以上

會勤の地に錦を飾る

新平署長の本田警視
警視署長の更迭は急上發表さ
れて福島、平兩署長の轉出に
より保安課長柴田鶴作氏は福
島、刑事課長本田勇次郎氏は
平へ何れも警視に昇格署長席
に座することになつた柴田氏
の新警視は早くからの説が實
現した譯で本田平の新警視は
去る大正十四年三月平署の巡
査部長勤務から警部補に進級
高田署の川口派出所へ轉じた
會勤の地で十四年目に錦を飾
る平市には思ひ出の多いもの
があるであらう本田氏は大正
七年巡査奉命當時既に秀才を

戦地 夜半の鐘聲の

便 詩の都寒山寺
野中出身 猪狩政友
（前文省略）小生事來の筆
不精者にて出征以來遂々本
日まで御無音に打過ぎ誠に
申譯御座なく候、お陰様に
て出發以來大過も之れなく
軍務に服し福重兵特務一等
兵を命ぜられ候、これ偏に
皆様の賜と厚く御禮申上候
吾々も北支天津に〇十日居
り〇月末日上海上陸當地
に來たり輸送の任に當り居
り候、前任地には十數日ほ

増上寺貫主

今日若松樹間
芝増上寺の貫主大島徹水師が
東北各地に傷病兵の慰問の途
上昨日平市九品寺を訪はれ
ること既報の如く當日は鐵道
の出水被害で仙台から本線で
郡山經由午後二時五十分平驛
着同宗寺院僧侶他に僧徒に迎
ひられて法話親睦の後午後七
時四十分平驛で郡山に向ふ
途上小野新町泊今日若松
陸軍病院を慰問した

女混りの賭博

小名濱町沖見町漁夫鈴木秀松
（四〇）小松留之丞（五〇）佐川權三
郎（五〇）等永春四郎（六〇）半島生
れ吉田仙吉事金賞金（三〇）小池
よ（三〇）等は本年四月以來前
記鈴木方に於て十丹賭博をな
しつゝあること平署に發覺し
て一人残り手檢査され目下取
調中である

運搬夫の窃盜

湯本町入山農運搬夫山形縣
東置賜郡大川村生れ山田常次
（三〇）は昨年十二月平市中鹽鈴
木勝正方に忍び入り衣類廿點
價格百圓を窃取せるを手初め
同僚の渡邊清治外數名から數
回に亘つて現金數十圓を盗ん
でゐること平署に探知檢査さ
れて取調中である

第四回の國債

順調に消化
平局制當の第四回國債變換四
萬五千七百圓は去月十五日の
賣出しに意圖外の賣行きで最
後に二十五圓券四枚を残され
てゐたが三十日午前中に全部
賣切れ的好成绩を上げた

産方

造り方 (三)

若し剥皮器がなかつた場合には楮の白皮をとるやうに庖丁を用ひて黒い皮がまだ乾燥しない中に上皮を剥けばよろしい、剥いた白皮は直ちに桶の中に浸漬して更に十本ぐもろづゝを一括けにして流水の中に一晝夜さらしてから取り上げて乾燥する。乾燥の後に品質により振り別けて三ヶ所締めとなし五貫目束にして蒸氣のないところに貯蔵しておく。

▲經濟調査、剥皮の利益、計算は桑の品種、剥皮の方法、労働時間、販賣等によつて色々であるがざつと一反歩の條桑二百貫とすると白皮が八貫目は得られる。此の白皮が、
▲相場の高い時であると、二貫目で二圓近くなるから一反歩に於て十六圓の収入となる、其の一例を上げると對桑條百貫目) ▲収入九圓九十錢、乾燥の白皮六貫目(貫目一圓六十五錢) ▲支出一圓五十錢、燃料代を差引いて八圓四十錢、手間器具代以上、なほ剥いだ皮は白いものほど高く取引されるのであるから丁寧にすればしたゞけの甲斐がある虫喰ひの跡や黒い筋の残らぬやうに注意すること、相場が大體楮の白皮の六、七割が普通であつて紙の本場小川町附近だけでも一ヶ年

の白皮使用量は十萬貫である(終り)

◆一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社
印刷部

藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 大岩俊雄
藥局

平市新川町九一
入院隨意
病室完備
木村病院
電話一六四番

根本婦産科醫院

平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
(入院隨時)

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら正宗
饅頭食料品

舎 山崎合名會社

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

日	月	火	水	木	金	土	日
品目	品目	品目	品目	品目	品目	品目	品目
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ

特別メニュー
材料のよさを生かして居る。其の節々のよい新鮮な物を御進め出来たので御客様からいつも御好評を蒙りて居ります。

RESTAURANT MAJUTOMO
堂食モトルマ

今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し「内臓外科」一般外科皮膚泌尿器科の診療に従事せしむ
平病院 (平市元共済病院跡)
院長 醫學博士 鈴木定藏
電話六四一番

内科 部長 鈴木定藏
小兒科 部長 佐藤幾要司
皮膚泌尿器科 部長 高橋俊幸
物理療法科 部長 鈴木定藏
レントゲン科 部長 高橋俊幸
藥劑科 部長 鈴木定藏
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此の限にあらざる)

夏の帽子
文字子供帽

パラソル
二重張と晴雨兼用傘

ツルヤ 平電一四〇

目科療診
一、齒科 一般
一、口腔 外科
一、レントゲン科
院長 日本齒科 中野憲次
副院長 日本齒科 西川誠
電話五〇九番

債券 公債 両替 金融

多田井質店
平市大工町 電話五九二番



國民精神總動員
日本國民必見の書……
内閣情報部發行
寫眞週報
1部10セン
お取次まして居ります
西村屋藥局

變圧器 販賣、修理
社會資合 所工鉄藤佐
町見月市平 (番二六三話電)